

新規大卒者の離職率は増加傾向！

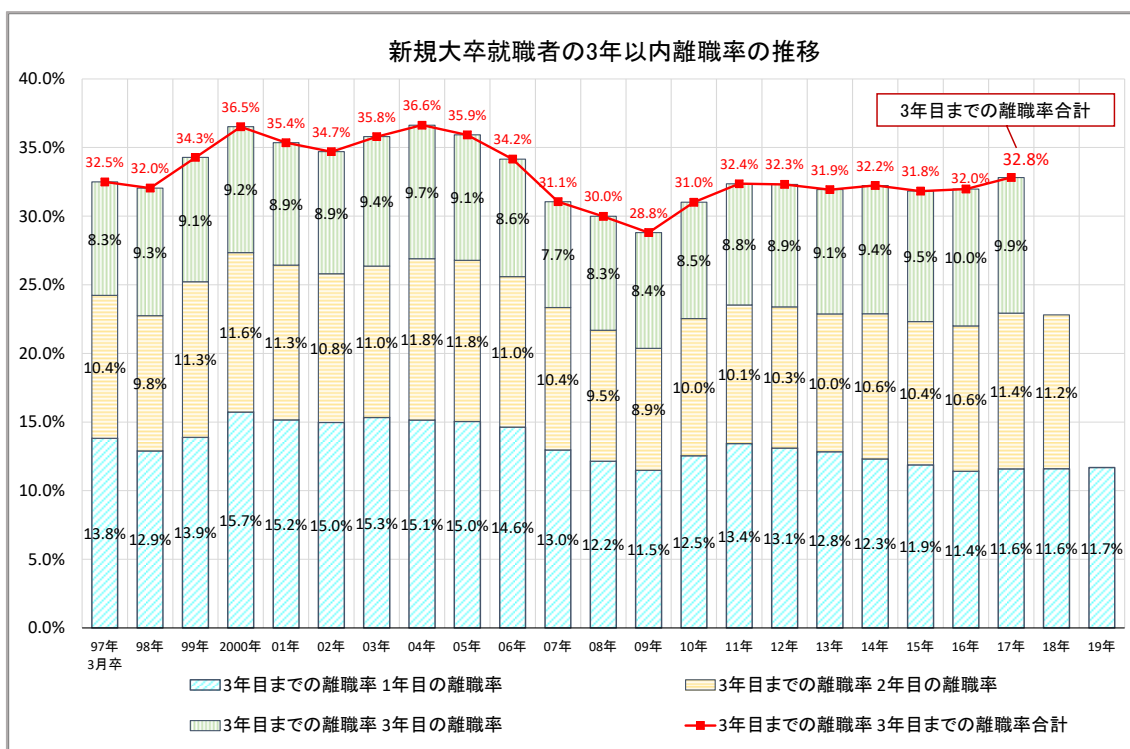
3年以内の離職率 30%超が恒常化

旺文社 教育情報センター 2020年11月17日

厚生労働省が10月30日に公表した「新規学卒就職者の離職状況」によると、2017年3月に卒業した新規大卒就職者の3年以内の離職率は、全産業平均で32.8%だった。離職要因は様々あるようだが、新規大卒就職者の3年以内の離職が3人に1人という状況は続いている。

■新規大卒就職者の離職率の推移

2017年3月に卒業した新規大卒就職者458,683人のうち、3年以内に離職したのは150,543人で、離職率は32.8%となり、前年より0.8ポイント上昇。近年では、2009年3月卒業者の28.8%を除き、30%台が恒常的となっている。今後、コロナ禍による就職状況の変化による離職率の上昇が懸念される。

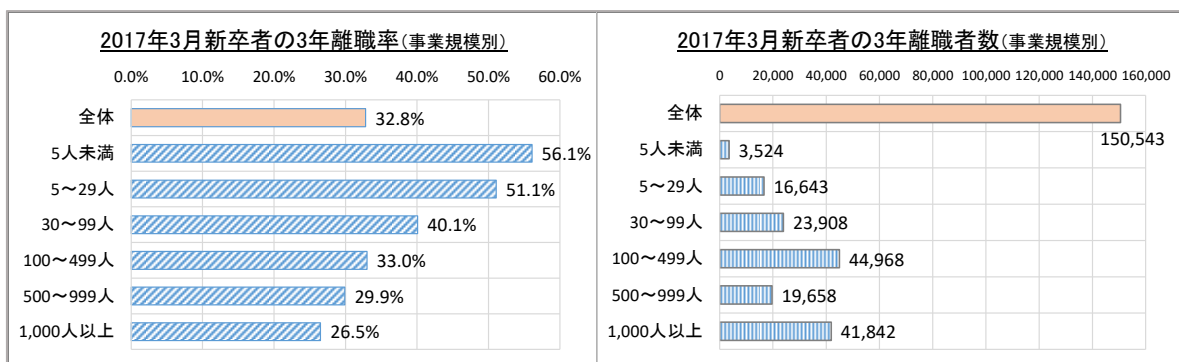
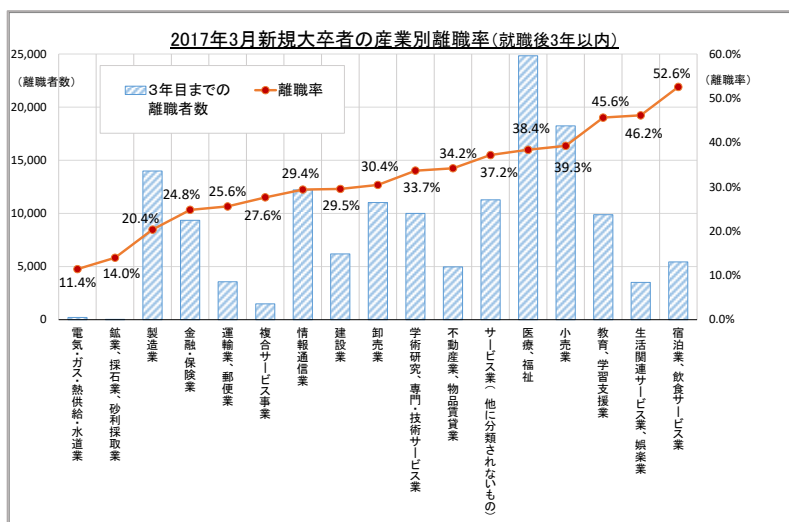


■新規大卒就職者の産業別、事業規模別の離職率

産業別の離職率の差は非常に大きく、電気・ガス・熱供給・水道業の11.4%、鉱業・採石業・砂利採取業の14.0%などに対し、宿泊業、飲食サービス業は52.6%、生活関連サー

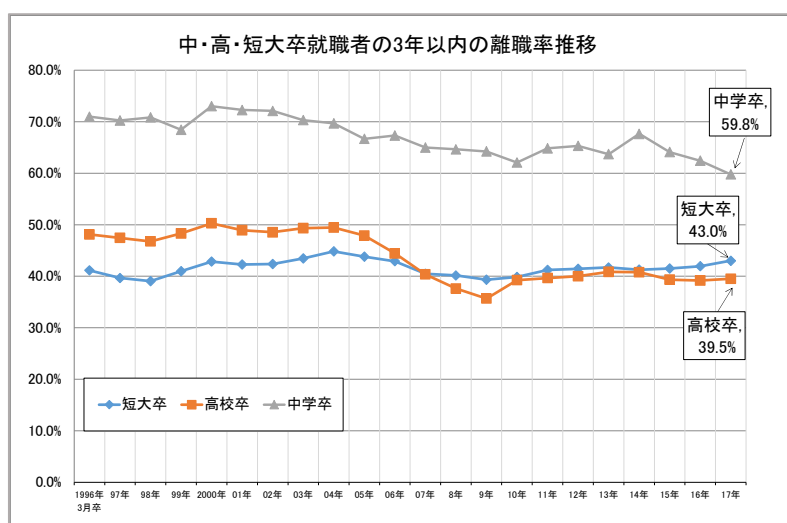
ビス業、娯楽業は46.2%などとなっている。離職者数では、医療・福祉が新規大卒就職者64,751人のうち、3年以内の離職者が24,843人(離職率38.4%)で最多となっている。

一方、事業規模別の離職率では、5人未満の事業所が56.1%と最も高く、1,000人以上は26.5%で最も低い。また離職者数では、100人～499人の事業所が44,968人で最多となっている。



■短大、高校、中学卒の離職率

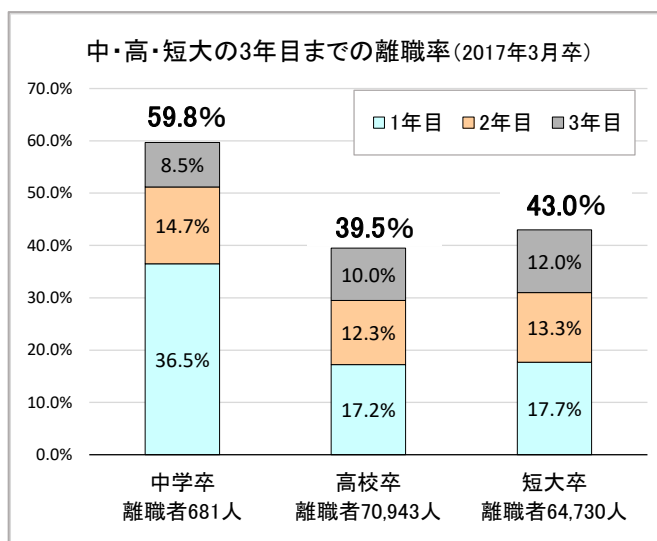
ここ数年の離職率は、短大卒が40～43%程度、高卒が39～40%程度、中卒が60～65%程度で推移している。



○短大卒＝43.0%（新規短大卒就職者 150,478 人のうち、3 年以内の離職者 64,730 人）で、前年より 1.0 ポイント上昇した。

○高卒＝39.5%（新規高卒就職者 179,529 人のうち、3 年以内の離職者 70,943 人）で、前年より 0.3 ポイント上昇した。

○中卒＝59.8%（新規中卒就職者 1,139 人のうち、3 年以内の離職者 681 人）で、前年より 2.6 ポイント下降した。
(常盤)



【データ：厚生労働省資料】(2020年10月30日公表：「新規学卒就職者の離職状況(平成29年3月卒業者の状況)」)

- ・この資料は、新規学卒として雇用保険に加入した者が対象で、その離職日から離職者数・離職率を算出。
- ・3年目までの離職率は、四捨五入の関係で1年目～3年目の離職率の合計と一致しないことがある。
- ・就職者数は基本的に卒業年次の6月末で確定するが、事業所の手続きの関係で、1年目、2年目、3年目で若干の変動がある。
- ・離職者数、離職率は、「2年目」の数値は1年目までの離職者を含む2年目までの離職者数と離職率、「3年目」の数値は2年目までの離職者を含む3年目までの離職者数と離職率を記載。